

視聴覚教育

NO 117

発行日

60年11月

発行 岡崎市AVL

編集

広報委員会

全国入賞の数々

自作視聴覚教材コンクールに三作品加

放送教育賞・視聴覚教育賞も

本年度も、岡崎の視聴覚教育に関する各種の実践活動が、全国的なレベルにおいて、高く評価された。

主な結果は、次の通りである。

〈全国自作視聴覚教材コンクール〉

本年度は、岡崎より自作ビデオ教材八作品、ハミリ映画教材一作品の計七作品が応募された。その結果、次の三作品が入選し、十二月に東京で表彰を受ける。

・「三河仏壇」(小五、社会科)

・「中小企業は今——岡崎のニットー」(中学校、社会科)

※制作は、共に視聴覚ライブラリー自作委員会と現職教育社会

科部共同。

・「梅雨時の子ヨウ」(小六、ゆどりの時間)

※制作：常盤南小学校 三浦重光教諭。

〈全日本視聴覚教育賞に六、美中学校〉

日本視聴覚教育協会が主催する、昭和六十年全日本視聴覚教育賞学校教育部門において、六、美中学校が「日本視聴覚教育協会々長賞(視聴覚教育奨励賞)」に選ばれた。六、美中学校の実践「わかる・できる・いきいきとした授業を求めて——パソコンを活用した形成的評価の実践——」は、ニューメディア時代における教育を先取りしたもので、全国各地より注目されている。表彰式は、東京で十二月八日に行われる。

〈全国放送教育賞論文に高木和広教諭(美川中)〉

昭和六十年全国放送教育賞論文で、美川中学校高木和広教諭の「確かなテレビ視聴から確かな追求活動」が、NHK会長賞に選ばれた。

十月三日、青森市で開催された全国放送教育研究大会席上での受賞となった。



視聴覚の聴に重きを置いた授業

東海中 岩 附 広 行

社会科の授業では、視聴覚教材は必須である。授業の中で一番生徒たちの心が揺れ動き、期待で胸をふくらませるのは、何といつても導入の場だ。この時に「最高の視聴覚教材を提示できた」と常々思っていた。視聴覚教材といつと、よく使われるのが、スライド・OHPである。この二つを使つて工夫した授業を行うと、生徒たちは非常に興味・関心を示してくれる。工夫したTPなどを使つと生徒たちは上機嫌だ。

しかし、よく考えてみると、この二つは共に生徒たちの視覚に訴えているだけで、視聴覚の聴に訴えるところが無いといつてよい。以前から視聴覚、視聴覚と言われるが、どちらかといつと視覚に訴える授業だけが行われてきた感がある。「何とかして聴覚にも訴える授業を」と考えて出てきたものが、スライドを見せると同時に、そのスライドのイメージにあったBGMをかけるといふのであった。「万里の長城」のスライドを生徒に提示すると同時に、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第一番の最初の部分をかけた時の生徒たちの何ともいえない表情（驚きとも喜びともいわれる表情）は、今でも私の脳裏にこびりついて離れない。

ニューメディア用語

第五世代コンピュータ

非常に複雑な判断や推論を超高速で行えるコンピュータのことで「人工知能」といふ。第一世代は真空管式、第二はトランジスタ、第三はIC、第四はLSIの発明により、外觀は小さく、記憶容量が増え、演算速度が速くなり、値段が安くなった。第五世代は、この発達とは別に全く異なる、発想・構成によるもので完成が待たれている。

ライブラリーだよ

16ミリ映画「考えていますか、あなたの老後」利用を。

本年度購入の十六ミリ映画フィルム「考えていますか、あなたの老後」を、カラー30分は、悔いのない高齢期をおくるために、どうしたらよいかを考えさせていただきます。主人公の生活ぶり、生甲斐を通して、明るく積極的な期待のものを、老後を教えてください。

自作TP12点も応募される。

小学校8点、中学校28点と大好評です。とうとう期待。